新見公立大学紀要　第43巻
pp. 189－194, 2022

調査資料

植物の栽培活動を通した遊びや造形表現の内容
－T市の取り組み「親子で自然とあそぼう」の実践から－

岡本直行[1)]*

1）新見公立大学健康保育学科

（2022年9月21日受付、11月16日受理）

本稿は、2006年から2009年まで実践されたT市の取り組み「親子で自然とあそぼう」の年度計画や保育実践記録等を整理し、植物の栽培活動を通した遊びや造形表現の内容についてまとめることを目的とした。4年間の取り組みでは、「園の環境構成の見直し、改善」「栽培、飼育活動年間計画の作成、内容と方法の拡充」「子どもの心に楽しさや感動等を残す援助」「保護者の気持ちに立った支援の実践」「飼育や栽培の活動に関して親子で会話する場の提供」「体験を遊びや絵画で表現する新たな活動の展開」等、内容の拡充や支援方法の発展がみられた。そして、「保護者の思いを受け止めた取り組みの年間計画を実践すること」「自然との触れ合いで見られる子どもの発見や感動を保護者とともに確認すること」「お互いの気づきや思いを伝えあい共有すること」等を通して共育ちにつながるという結論に至っている。植物の栽培活動を通した遊びや造形表現活動においては、栽培した植物で遊ぶこと、制作活動を行うこと、食べること等、子どもたちに大きな喜びを与える内容を見出している。このように、自然と直接触れ合い体験を重ねることで、自然の美しさや偉大さ、楽しさ等に気づき、感動する心や共感する心、自然を愛する心が育まれる。また、そのような体験を保護者や友人と共有することで、ともに喜び楽しんだ人々に親近感を覚え良好な人間関係を築くことが可能となる。

（キーワード）自然体験、遊び、造形表現、保育現場

1．目的と方法

本稿の目的は、植物の栽培活動を通した遊びや造形表現の内容について、保育現場での実践を通してまとめることである。自然体験の重要性に関しては、文部科学省の「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」の結果、自然体験が豊富な子どもほど、道徳観・正義感が充実していると報告されている[1)]ことからも理解できる。また、学研のHP「こどだてまっぷ」では、保護者に対して子どもとともに自然体験を通して遊ぶことの重要性を掲載しており、自尊感情や外向性が育まれること、幼少期から自然体験をするとよい影響があること、自然体験が人間関係にも影響すること等をメリットとして挙げている[2)]。自然体験の取り組みは地方自治体や各団体、保育現場や教育現場でも実践されている。

調査を進めるにあたり、T市が2006年から2009年に取り組んだ、親子の関わりを深める自然体験活動の指導計画書や保育実践記録、研究会における保育実践の発表資料を取り組みに参加された先生からご提供いただくことができた。そこで、本研究では、これらの資料をもとに、自然体験のねらいや活動の内容、保育士の支援内容、共育ちの様子等について季節や植物の種類等によって分類し、一覧を作成することでまとめる。資料に記載された内容等の記述に関しては、取り組みに関わり、計画の作成や記録をとった保育士の考えや思いを尊重するため、資料に使用されている文字や言い回しを用いることとする。

なお、T市の取り組みに関する指導計画書、保育実践記録等の内容を本稿に使用することについてご理解・ご承諾いただいていることを述べておく。

2．T市の取り組み「親子で自然とあそぼう」の概要

T市では、2006年から2009年の4年間にわたり、子どもと保護者の関わりを重視しながら自然体験を楽しむ取り組みに着手した。それは、少子化や核家族化の進行により、家庭や地域社会の子育て機能の低下、多様な人間関係を築く機会の減少等、子どもを取り巻く環境の変化した社会的背景に起因する。保育士たちが感じていたこととして、子どもは幼児期に保護者や身近な人との愛着関係を通して人格の基盤を形成するが、家庭における子どもを取り巻く生活に戸惑いを感じ、子育てができない保護者が増加していたことが挙げられる。

取り組みが開始された当時、保育士に求められていた子育て支援者の役割について考えてみたい。1990年の1.57シ

*連絡先：岡本直行　新見公立大学健康科学部健康保育学科　718-8585　新見市西方1263-2

ョックを機に、子育て支援施策が本格的に始まったのは、1994年のエンゼルプランである。この施策の特徴は、子育てや子どもの育ちを課題としてではなく、少子化対策として始まったことに特徴がある[3)]。子育てと仕事の両立支援が中心的課題となり、保育所は乳児保育、延長保育といった保育サービスの充実を担うことになった。それ以降、保護者を支援すること、子どもの育ちを保障することが保育所の役割であると認識されるようになり、子どもの育ちに重点を置いた子育て支援の実践が求められた。

1993年から1999年の保育所は、孤立する保護者や親子関係の構築に困難を抱える保護者に対して、子育て家庭の交流を促す場、子育てを相談できる場として機能し始めるとともに、親子関係の希薄さが指摘されるようになった。そのような背景から、子育て支援の本質的な内容は、親子関係のコミュニケーションの回復支援であり、保護者、子どもへの支援だけでなく親子関係にも視点が向けられるようになった。

2008年、厚生労働省により保護者支援が保育士の役割として明確に示され、保育士と保護者が連携して子どもを共に育てていく共育ちの視点が重視されるようになる。保育士の子育て支援が子どもへの保育を通した保護者支援となるとともに、保護者支援が子どもの育ちにつながるという共育ちの広がりによって、親子の関係性に視点を置く支援が求められたといえる。

このような背景の中、豊かな自然に囲まれたT市の地域性を活かした取り組みが開始された。様々な自然体験を通して親子で感動し共感し合うことによって、保護者が子どもの育ちに目を向け子育ての喜びを味わうこと、自然との関わりを通して、子どもと保護者、保育士が安定した人間関係を築くこと、子どもの心情、意欲、態度を育むこと等を目的としている。2006年度から2009年度までの取り組みの内容と経過をまとめたものが「表1」である。

2006年度は、自然体験を通して生まれる感動を親子で共有し、コミュニケーション力を育むことをねらいとして、自然体験の内容の充実を図るために年間指導計画の作成や環境構成の見直しに取り組んでいる。

2007年度は、自然との関わりを通して共育ちを育むことをねらいとし、2006年度に立てた指導計画を見直し、保護者と子どもが一緒になって自然体験を行う内容を園全体で協力して取り組むように改善している。また、家庭との連携を深めるために、自然体験に関する参観日の実施や登降園自時、園だよりを通じて親子の関わりに対する支援を強化している。

2008年度は、自然に触れる子どもの姿に目を向けた保護者が子どもとのかかわりを深めることをねらいとして、子どもの活動に変化を与えるために園の環境構成を改善している。また、自然体験を通した親子の関わりを充実させることを目的とした、栽培や飼育活動の年間計画を作成した。ホームページによる家庭との連携強化、親子で楽しむ親子クイズやにこにこタイムの実施等、内容と方法の拡充がはかられている。

2009年度は、保育の質の向上を通して保育者が親子の育ちに関わる方法を見出すことをねらいとして、保育士自身が自然から感じる心を大切にし、心の豊かさを養うことによって、子どもの心に楽しさや感動等、を残す援助、保護者の気持ちに立った支援を実践している。また、実際に経験した飼育や栽培、遊びの活動について、気づきや工夫を言葉に表現して親子で会話をする、絵画で表現する等、新たな活動に展開させている。そして、4年間のまとめとして、保護者の思いを受け止めながら取り組みの年間計画を実践すること、自然との触れ合いを通して子どもの発見や驚き、感動を保護者とともに確認すること、お互いの気づきや思いを伝えあい共有すること等によって、共育ちにつながるという結論に至っている。

表１．2006年年度から2009年度までの取り組みと経過

2006年度	◎自然に触れ体験することにより感動する心を共有し人と関わる力を育む ○園だより等の広報誌の自然に関する内容の充実 ○環境構成の見直し		
	・飼育・栽培・あそびの年間計画作成	・保育メモをとる（体験・感動・関わり） ・園内討議をする ・グループごとの公開保育をする	
2007年度	◎自然との関わりをとおしての子どもの育ち親の育ち ○保護者と子どもが一緒に自然に関わる定見ができる保育計画 ○園全体での協力		
	・年間計画見直し	・保護観察記録（保育メモ） ・園内討議をする ・グループごとの公開保育をする	・家庭との連絡をとる（参観日・登降園時・園だより等、）
2008年度	◎保護者と子どもが自然に触れ保護者が子どもの姿に目を向けてかかわりを深めていく ○マンネリ化しがちな環境構成の改善 ○園全体での協力		
	・保護者との関わりの年間指導計画作成	・保育観察記録（保育メモ） ・園内討議をする	・家庭との連絡をとる（ホームページ・親子クイズ・にこにこタイム　月１回）
2009年度	◎保育内容の質の向上を通して子育ち親育ちに保育士はどのように関わっていくか ○保育士自身が感じる心を持ち心の豊かさを養う ○子どもの心に残る援助と保護者の思い		
	・保護者との関わりの保育実践のまとめ	・保育観察記録（保育メモ） ・園内討議をする	・実際の経験をもとに、飼育・栽培・あそびについて気づきや工夫を言葉や絵で表現する（まとめて小冊子にする）
	・保護者の思いを受け止めながら、ふれあい年間計画を実践していく ・自然を通しての子どもの発見、驚き、感動を保護者と伝えあい共感しあうことで子どもの成長を喜び合い育ちへとつなげていく		

3．自然体験を通して親子の関わりが深まることを目的とした年間計画の内容

自然体験が激減し、便利な生活しか知らない子どもたちが増加する中、自然とつながる遊びや生活を数多く経験し、自然を好きになること、親子で自然体験の楽しさや感動を味わうこと、それらの体験を通して子育ての喜びに導くことを目的として開始された、T市の取り組みにおいて、2006年度、2007年度の活動結果から作成された年間指導計画は、1年間を1期（4月～5月）、2期（6月～8月）、3期（9月～12月）、4期（1月～3月）に分け、各期に事保護者の関わりの内容、活動、保育士の支援、共育ちの項目と要点を配置して作成されている。ご提供いただいた年間計画や取り組みの内容等、の保育資料を基に、「自然体験を通した親子の関わりの内容、保育士の援助の内容、自然体験を通して育まれる共育ちの内容をまとめたものが「表2」である。

表2　親子で自然とあそぼうの年間指導計画の内容

1期（春）に見られる親子の関わりは、「親子で植物の栽培や観察を通して、植物が生長していく様子や新たな発見を共に喜ぶこと」「春の植物を用いた遊びに興味を持ち子どもとともに家庭でも楽しむこと」「小動物を子どもとともに観察し新たな発見や驚きを共有することと」であり、保育士の支援は、「保護者が子どもとの遊びに無理なく参加できるように配慮すること」「親子がともに遊ぶ環境を構成し活動を継続可能な支援を行うこと」「子どもたち様子や興味関心を保護者に伝達する方法の多様化し保護者の興味関心を引き起こすこと」である。植物や野菜の栽培、遊び、試食を通して親子に育つ共育ちの内容は、「植物の栽培や小動物の飼育に親子で関心を持ち共通の話題を持つこと」「草花を用いた様々な遊びに関心を持つこと」である。

2期（夏）の親子の関わりの内容は、「収穫し持ち帰った野菜を親子で調理し食べることで共通の話題を持つこと」「夏の草花等、を用いて様々な遊びを親子で楽しむこと」「自然に興味・関心を持ち家庭や園で見つけた小動物を親子で観察や飼育・調査を行うこと」である。保育士の支援内容は、「植物の栽培に関心を持ち育てる楽しみや収穫する楽しみ、食べる幸せを味わえるよう提案すること」「園の掲示や展示の内容・方法を充実させ親子や保護者間の会話の場を作ること」「夏の草花や収穫物を用いた遊びを紹介し親子の遊びが展開される環境作り行うこと」である。2期の活動で親子に育つ共育ちの内容は、「植物の生長を楽しみながら親子で育てる喜びを味わうこと」「子どもが抱く遊びたい気持ちを保護者が受け入れ一緒に楽しむこと」「小動物に関する疑問や飼育方法等を親子で調べ関心を深めていくこと」である。

表２．親子で自然とあそぼうの年間指導計画の内容

１期（4 月～5 月）	
子と保護者のかかわりの内容	・親子で野菜の栽培をしたり、世話をしたりして生長していく様子を共に喜ぶ。 ・春の草花を使った遊びに興味を持ち、一緒に家庭で試してみる。 ・小動物を一緒に見つけたり、観察したりすることで、変化や成長を発見し、驚き思いに共感する。
保育士の援助	・子どもとの遊びに無理なく参加できるように時間帯や家庭の都合などを考慮する。 ・親子で遊べるコーナーを設定し、一緒に遊べる環境を作ると共に、継続して参加してもらえるよう工夫する。 ・園だよりやクラスだよりで子どもたちが自然物と関わっている様子や感動・驚きの言葉を保護者に伝え、自然物への関心親しみが持てるようにする。
共育ち	・飼育、栽培物に親子で関心を持ち共通の話題を持つ。 ・草花を使ったいろいろな遊びに関心を持つ。
２期（6 月～8 月）	
子と保護者のかかわりの内容	・収穫した野菜を持ち帰り、一緒に調理したり食べたりすることで共通の話題を持つ。 ・夏の草花や自然物を使って、様々な遊びを一緒に楽しむ。 ・自然に興味や関心を持ち、家庭から持ってきた小動物を園で飼ったり園で見つけた小動物を持ち帰ったりするほか、親子で一緒に見たり触ったり、調べたりする。
保育士の援助	・栽培物に関心を持ち、育てる楽しみ、収穫する楽しみ、食べる幸せを味わえるよう提案をしていく。 ・園の掲示や展示コーナーを充実させ保護者が興味を持ち、親子や保護者通しの会話の場となるようにする。 ・夏の草花や収穫物を使ったいろいろな遊びを紹介し、一緒に遊びを楽しめるような環境を工夫する。
共育ち	・生長を楽しみにして親子で関わりながら育てる喜びを味わう。 ・子どもの遊びたい気持ちを受け入れて一緒に楽しむ。 ・小動物に関する疑問や育て方など親子で調べ、関心を深めていく。
３期（9 月～12 月）	
子と保護者のかかわりの内容	・親子で大切に世話や観察をしてきた栽培物を、収穫する喜びや満足感を共有する。 ・親子で自然物を使って考えたり工夫したりしながら、作ったり遊んだりする楽しさを一緒に味わう。 ・季節の変化に伴う飼育物の変容に関心を持ち、お互いの思いを伝え受け止めあうとともに、いたわる心や命の大切さなどを知る。
保育士の援助	・自然を通して保護者同士の関係を深め、園が子育ての情報交換の場となるようにする。 ・自然物を使った遊び、栽培物を使ったレシピ、飼育物の育て方などを紹介したリストを配布し家庭で利用してもらう。
共育ち	・収穫することの喜びや親子で食べることの満足感などを共有する。 ・親子の会話を楽しみながら作る喜びを味わう。 ・小動物の変化に気づき、命の大切さを感じあう。
４期（1 月～3 月）	
子と保護者のかかわりの内容	・春に咲く花や収穫できる栽培物を知り、親子で植えたり育てたりすることを楽しむ。 ・機会を捉えて冬ならではの遊びを見つけ、子どもの心に寄り添い親も一緒になって遊ぶ。 ・小動物の冬超しの方法や様子、冬から春への自然の変化などに興味や関心を持つ。
保育士の援助	・子どもと一緒に遊んだり、考えたり、試したりする時間を共有する中で、お互いの思いを受け止めあう場や機会を提供するようにする。 ・自然事象の変化に気づいたり、触れる機会を逃さないように持ったりし、発見や驚きを親子で共感し合えるようにしていく。
共育ち	・体験してきたことを通して、親子での会話や関わりが増えいろいろな物事に感じる心が育ったことを喜び合う。

3期（秋）に見られる親子の関わりは「大切に世話や観察をしてきた植物を収穫する喜びや
満足感を親子で共有すること」「植物について考え工夫することを通して、植物を素材とした遊びや制作の楽しさを

親子で味わうこと」「季節の変化に伴う植物の生長に関心を持ち、親子で共感することや労わる心、命の大切さ等を知ること」である。保育士の支援の内容は、「自然体験によって保護者間の人間関係を深め、園が子育ての情報交換の場となること」「自然物を用いた遊び、植物を使ったレシピ、小動物の育て方等を紹介したリストを配布し家庭で利用してもらうこと」である。3期の活動で育つ共育ちの内容は、「収穫することの喜びや親子で食べることの満足感を共有すること」「親子の会話を楽しみながら作る喜びを味わうこと」「小動物の変化に気づき、命の大切さを感じ合うこと」である。

4期（冬）の親子の関わりの内容は、「春に咲く花や収穫できる植物の種類を知り、親子で栽培する楽しさを知ること」「季節感を味わうことのできる遊びを見つけ、子どもの心に寄り添い親子で遊ぶこと」「小動物の越冬の方法や様子、季節の変化等、自然に興味関心を持つこと」である。保育士の支援内容は、「子どもとともに遊び考え試行錯誤する時間を通して互いの思いを受け止め合う機会を提供すること」「自然事象の変化に気づき、新たな発見や驚きを共感することが可能な機会を設定すること」である。4期の活動で育つ共育ちの内容は、「体験によって培われた親子の会話や関わり、様々な事象を感じとる心の成長を喜び合うこと」である。

親子の関わりは、親子で植物に触れ栽培することを通して、植物についての発見をともに喜ぶことから始まっている。栽培活動を重ねるに従い、植物に対する興味や栽培方法への慣れが深まるとともに、親子の会話が生まれ、収穫して食べること、遊びや制作の材料にしてともに遊ぶこと等を通して、親子の関わりが深化するようにプログラムされている。また、親子の自然体験が進むにつれて、保護者同士、子ども同士のコミュニケーションが生まれ、皆で自然体験を楽しむ様子は、学研の子育てマップにも取り上げられている力が自然体験によって育まれることを意味していると考えられる。

保育士の援助は、活動開始時は参加を促す等、理解を得ることから始まっている。活動が進むにつれて、観察や栽培の喜びや感動、食べることや遊びや制作に転じることの楽しさ等、感情が充実するように計画されたイベントや言葉がけ、支援によって、親子、友人、家庭へと取り組みの成果が拡大すると考えられる。このような保育現場と家庭の関係は一方的な依存的関係でなく、共に学び合い育ち合う関係が望ましいと考えられる。家庭が保育現場からの子育てサービスを受ける一方で、家庭からの情報や相談は保育士のスキルアップにつながる。このような取り組みは、子どもへの理解や子育てへの自信が進化するだけでなく、子どもの疾病や事故、感染症の予防対策、食事・献立、しつけ等の子どもへの不安や悩みに対する責任感や子どもや地域の人々とともに学び合い育ち合うといった、地域ぐるみの共育ちにつながると考えられる。

4．自然体験活動を通した遊び・制作活動の内容

年間指導計画に挙げられている、親子が取り組む内容を具体的に示したものが、年間指導計画にある活動内容である。活動は、植物の栽培と小動物の飼育に分けて実践されている。

植物の栽培活動の期間と内容を簡潔にまとめたものが以下の表である。「自然体験活動の期間と内容（植物の栽培）の一覧は、年間計画にある1期から4期のうち、分類の重点を、①季節の早い時期から栽培を開始する植物、②栽培期間が短い植物順に示した。栽培期間の表記については、栽培開始を第1段階とし、各期を超すごとに段階が上がることを認識可能なように背景の濃度が濃くなるように配置した（表3）。

表３．自然体験活動の期間と内容（植物の栽培）

	1 期	2 期	3 期	4 期
夏野菜	■	■ △●▲		
枝豆	■	■ △		
オジギソウ	■	■ ●		
ヘチマ・ゴーヤ	■	■ ●		
アサガオ	■	■ ●	■ ●	
稲	■	■	■ ●▲	
サツマイモ	■	■	■ ●▲	
ラッカセイ		■	■ ●	
カイワレダイコン		■	■ △	
フウセンカズラ・ヒマワリ		■	■ ●	
キク		■	■ □●	
チューリップ・パンジー			■	■
ラディッシュ			■	■ △
冬野菜			■	■ △
イチゴ	■ ▲		■	■
ヒヤシンス	■		■	■
タマネギ	■	■ ▲	■	■
桜・八重桜	▲			■ ●

※　栽培の期間（栽培開始を１段階とし、各期を超すごとに段階が上がることとする）

1 段階		2 段階		3 段階		4 段階	

※　■栽培に関わる活動　▲試食　●遊び・制作　△家庭で試食　□家庭で栽培

活動で取り上げる植物は、比較的飼育が簡単な種類が選ばれ、1年を通じて、何かの植物の栽培活動や生長の観察を行うことができるようにプログラムされている。また、植物の栽培や成長過程の観察によって、様々な形や色と出会い、植物の部位（葉、つる、花、種等）を遊びや制作活動に使用できるもの、育てた実を収穫し食べることができるもの等、自然体験を経て新たな活動に展開することが可能な取り組みである。

例えば、栽培開始時においては、種を植えるもの、苗を植えるもの、挿し木をするもの、球根や実を植えるもの、土壌栽培するもの、水耕栽培するもの等、様々な方法を体験できる。また、茎に着目すると、茎が天に向かい生長する

表４．植物栽培活動の内容の詳細

	1 期（4 月～5 月）	2 期（6 月～8 月）
夏野菜	■土作り ■夏野菜の苗を植える キュウリ・トマト・トウモロコシ・ゴーヤなど ■ジョウロ作り ■観察・世話をする 水やり・支柱たて・わき芽とり	■収穫 △家庭に持ち帰る ●スタンプ遊び オクラ・ゴーヤなど ●トウモロコシの皮で遊ぶ 敷物作り・人形作り ▲ミニトマトシャーベット試食 ▲ゴーヤの佃煮試食
枝豆	■種まき ■水やり・観察	■水やり・観察 ■収穫 △家庭に持ち帰る
オジギソウ	■オジギソウの苗を植える ■水やり・観察	■水やり・観察 ●触って遊ぶ
ヘチマ ゴーヤ	■種まき ■水やり・観察	■水やり・観察 ●ゴーヤのトンネル ■収穫 ●ヘチマ水作り（ヘチマ水の使用） ●たわし作り（ヘチマ） ●ゴーヤ水作り（ゴーヤ水の使用）
	2 期（6 月～8 月）	3 期（9 月～12 月）
ラッカセイ	■ラッカセイの苗を植える ■観察・世話をする 草取り・水やり	■観察・世話をする 草取り・水やり ■収穫 ●ラッカセイ人形作り
カイワレダイコン	■水栽培準備 ●栽培用牛乳パックデザイン遊び ■種まき・観察	■収穫 △家庭に持ち帰る
フウセンカズラ・ヒマワリ	■フウセンカズラ・ヒマワリの種まき ■水やり・観察	■水やり・観察 ●種で遊ぶ ※フウセンカズラ・ヒマワリ以外の種を含む フウセンカズラ・ヒマワリ・カボチャ・ゴーヤ・スイカ・アサガオ
キク	■菊の挿し木をする ■水やり・観察	■水やり・観察 ■開花 □家庭に持ち帰る ●キクの花の生けこみ
	3 期（9 月～12 月）	4 期（1 月～3 月）
チューリップ パンジー	■チューリップの球根を植える ■パンジーの苗を植える	■発芽の観察 ■水やり・生長の観察
ラディッシュ	■種まき ■水やり・観察	■水やり・観察 ■収穫 △家庭に持ち帰る
冬野菜	■冬野菜の苗を植える ニンジン・ダイコン・ホウレンソウ・ブロッコリー・シュンギクなど ■水やり・観察	■水やり・観察 ■収穫 △家庭に持ち帰る
	4 期（1 月～3 月）	1 期（4 月～5 月）
桜・八重桜	▲親子で桜茶を飲む	●八重桜摘み ●桜の塩漬け

	1 期（4 月～5 月）	2 期（6 月～8 月）	3 期（9 月～12 月）
アサガオ	■種まき ■観察・世話をする 水やり・支柱たて	■観察・世話をする 水やり ■開花 ●押し花遊び ●色水遊び ●たたき染め ●こすりだし	■種とり ●種で遊ぶ ※アサガオ以外の種を含む アサガオ・ヒマワリ・カボチャ・ゴーヤ・スイカ・フウセンカズラ・ ●マラカス ●種おとし ●のれん
稲	■モミまき	■田植え ■観察・世話をする 草取り	■稲刈り ■モミすり ●わらで遊ぶ ▲おにぎりパーティ
サツマイモ	■サツマイモの苗植え ■観察・世話をする 水やり・草取り	■観察・世話をする 水やり・草取り	■観察・世話をする 水やり・草取り ■芋掘り ●芋版遊び ●つるで遊ぶ ▲焼き芋パーティ

	3 期（9 月～12 月）	4 期（1 月～3 月）	1 期（4 月～5 月）
イチゴ	■イチゴの苗を植える ■水やり・観察	■水やり・観察	■収穫 ▲イチゴの試食 ■開花の観察
ヒヤシンス	■ヒヤシンスの水栽培をする	■発芽の観察	

	3 期(9 月～12 月)	4 期（1 月～3 月）	1 期（4 月～5 月）	2 期(6 月～8 月)
タマネギ	■タマネギの苗を植える ■水やり・観察	■水やり・観察	■水やり・観察	■水やり・観察 ■収穫 ▲カレーパーティー

※　■栽培に関わる活動　▲試食　●遊び・制作　△家庭で試食　□家庭で栽培

もの、茎がつるとなり巻き付いて生長するもの、茎が地をはうもの等、様々な形態を持つ植物に触れる機会が設けられており、多くの発見や感動、喜びや楽しみを産む取り組みといえる。

遊びや制作活動の内容の流れを示したものが、(表4) である。内容は、夏野菜を使用したスタンプ遊び、トウモロコシの皮で作る敷物作り、トウモロコシの皮やラッカセイを使用した人形作り、ゴーヤのつるで作ったトンネルをくぐる遊び、ヘチマの実のたわし作り、花を使用した色水遊びや染物、種を使用したマラカス作り、種おとし遊び等、様々な遊びや制作活動に発展している。また、収穫した果実や野菜は、家庭に持ち帰る以外に、園で試食する、シャーベットを作る、佃煮を作る、カレーパーティーを行う、焼き芋の活動を行う、桜の塩漬けを作り桜茶として楽しむ等で使用されている。自分が栽培した植物で遊ぶこと、制作活動を行うこと、食べることは子どもたちに大きな喜びを与えることであろう。

５．まとめと今後の課題

本稿は、2006年から2009年まで実践されたT市の取り組み「親子で自然とあそぼう」の
年度計画や保育実践記録等を整理し、植物の栽培活動を通した遊びや造形表現の内容についてまとめることを目的とした。保護者支援が保育所の役割となった社会的背景に対応するために、T市が取り組んだ活動の狙いや支援の内容、植物栽培活動の内容とそれを通した遊び、造形表現を整理することができたと考える。

自然と直接触れ合い体験を重ねることで、自然の美しさや偉大さ、楽しさ、不思議さ、命の尊さに気づき、感動す

る心や共感する心、自然を愛する心が育まれる。また、そのような体験を保護者や友人と共有することによって、新たな発見を見出し、ともに喜び楽しんだ人々に親近感を覚え良好な人間関係を築くことが可能となると考えられる。自然体験が自尊感情やコミュニケーション力を育み、人々が共育ちする取り組みは、地域ぐるみで子育て支援を実践することにつながるであろう。

本稿は、T市の植物栽培活動や遊び、造形表現の内容をまとめたが、今後はまとめた内容と、さらに詳細に記された保育実践の資料、活動の発表資料等を用いて、自然体験活動の内容の指導法とそれが親子にどのような影響を与えるかについての研究を継続したいと考える。

謝辞

本稿のために子どもの造形表現の活動記録をご提供下さった、T市の保育士の皆様に感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

注

1）青少年教育活動研究会：子どもの体験活動等に関するアンケート調査，文部省委嘱調査，1999
2）こそだてまっぷ：ママ・パパ必見。自然体験を通して子どもと遊ぼう，学研， https://kosodatemap.gakken.jp/learning/education/20485/，2022.7.24.オンラインアクセス
3）松田茂樹：少子化対策における家族社会学の貢献と今後の課題，社会学評論266号66巻2号，pp260-277，2015

文献

1）青少年教育活動研究会：子どもの体験活動等に関するアンケート調査，文部省委嘱調査，1999
2）こそだてまっぷ：ママ・パパ必見。自然体験を通して子どもと遊ぼう，学研， https://kosodatemap.gakken.jp/learning/education/20485/，2022.7.24.オンラインアクセス
3）松田茂樹：少子化対策における家族社会学の貢献と今後の課題．社会学評論266号66巻2号，pp260-277，2015
4）大豆生田啓友：保育の場における子育て支援の課題．保育学研究第51巻第1号 pp.134-141，2013
5）季刊「発達」138：いま、保育に求められていること．ミネルヴァ書房，2014
6）楠本洋子：保護者支援としての親育て・親育ち支援に関する研究．大阪総合保育大学大学院博士学位論文，2017
7）金子仁：自然体験が育む幼児の生きる力の育成－森の幼稚園での活動を通して学ぶこと－．育英短期大学幼児教育研究所紀要第13号，2015
8）松本信吾：身近な自然を活かした保育実践とカリキュラム (環境・人とつながって育つ子どもたち)．中央法規，2018